

中学校の部 最優秀

安心して暮らせる街をつくるために

福島市立北信中学校3年 松原 悠 翔

僕は今まで、毎日安全に学校に通えることを当たり前だと思って過ごしてきました。しかし、ニュースで事件のことを聞いたり、学校で不審者情報のプリントをもらったりするたびに、その当たり前がいかに大切なものかをつくづく実感するようになりました。誰もが怖い思いをすることなく、安心して暮らせる街にするためには、一体どうすればよいのだろうかと考えさせられます。

僕は小学校の頃から、「イカのおすし」と言う防犯の約束を何度も教わってきました。知らない人についていけない、大声を出す、すぐに逃げるといった、自分の身を守るための基本の行動です。ただ、小学生のときはランドセルに防犯ブザーをつけていましたが、中学生になってからは持ち歩かなくなり、少し防犯への意識が薄れていたかもしれないと気づきました。しかし、自分一人の力だけで完全に身を守ることは難しいはずです。だからこそ、いつも道に立って見守ってくれている地域の方々の存在が、安心の土台になっているのだと思います。

これから僕にできることは中学生になった今の自分自身の防犯意識をもう一度見直すことです。友達との下校中におしゃべりに夢中になって周囲への注意が疎かにならないようにすることや、一人で帰るときはできるだけ明るく人通りの多い道を選ぶことなど、日頃のちょっとした心がけが大切になります。

そしてもう一つは、街の中で周りの様子にしっかり目を向けることです。普段歩いている通学路に危ない場所がないか気をつけてみたり、見守ってくれる地域の方々に自分から進んで挨拶をしたりします。私たちが元気に挨拶を交わすことで、街全体が明るくなり、地域の人たちと「顔見知り」の関係を作ることができます。

そうしてお互いの距離を縮めておくことが、いざというときに助け求め合える、本当の安心につながるはずです。

安心して暮らせる街をつくることは、誰か特別な人だけが頑張ればよいわけではありません。一人一人が自分の身を守る意識を持ち、地域の中でお互いに関心を持ち合うという、小さな心がけの積み重ねだと思います。

僕はこれからも、地域の一員としての自覚を持って、毎日の防犯対策をしっかり続けていきたいです。正式には、誰もが安心して笑顔で暮らせる温かい街を、みんなと一緒に作っていかうと思います。